

風疹に注意しましょう

現在、首都圏を中心に風疹が流行しています。
風疹は成人では重症化することがあり、また妊婦への感染も問題となっています。
風疹について十分に理解し、感染を拡大しないよう十分な注意をしましょう。
風疹が疑われる症状があれば、速やかに医療機関を受診しましょう。

<風疹の症状>

風疹は風疹ウイルスによる感染症です。唾液などの飛沫で感染します。

感染した2~3週間後に、発熱などの風邪症状、発疹、リンパ節の腫れが出現します。発疹は淡紅色で顔面から胴体、全身へと広がります。リンパ節の腫れは耳の後ろが多く、頸部、後頭部にも見られます。

<感染性>

感染力は麻疹（はしか）や水痘（みずぼうそう）ほど強くありませんが、同じ職場での多発例などもあり、注意が必要です。

基本的に小児の疾患で、定期的な予防接種を受けていれば罹患しにくいとされています。

近年は予防接種歴のない成人での感染の報告が増えています。

<治療>

ウイルス感染症であり、特効薬はありません。症状をおさえるための対症治療が中心となります。

<注意点>

成人が感染した場合は重症化する危険があります。

妊婦の感染の場合、胎児に難聴や心疾患、白内障や緑内障などの障害（先天性風疹症候群）が起こる危険性があり注意が必要です。妊婦は予防接種が受けられませんので、妊婦の周囲の方（妊婦の夫、子ども、職場の同僚など）は、発症しないように努める必要があります。

<予防>

予防接種が有効です。小児の定期予防接種がありますが、成人に対しても有効です。厚生労働省でも、特に妊婦の周囲の方、妊娠する可能性のある方、産褥早期の女性には予防接種の検討を勧めています。

また、飛沫感染する疾患ですから、**手洗いや咳エチケット等をしっかりおこなうことが重要です。**

発疹やリンパ節の腫れをとまなうような病状の場合は、風疹を疑い、早めに医療機関を受診し適切に対処しましょう。

風疹と診断された場合、周囲への感染を防ぐよう注意して下さい。感染力のある期間（発疹出現2~3日前から発しん出現後5日間）は外出を控えましょう。

<参考>

[厚生労働省 風疹について](#)

[東京都感染症情報センター 風疹](#)

[国立感染症研究所 風疹とは](#)